

平成12年1月13日

## 音声認識パソコン紹介プログラムのスタート

インターネット・トレーディング専門証券会社のディーエルジェイディレクト・エスエフジー証券株式会社（代表取締役：國重惇史、本社：東京都千代田区；以下「DLJdirect」）は、日本アイ・ビー・エム株式会社（代表取締役社長：大歳卓麻、本社：東京都港区；以下「日本IBM」）と株式会社日立製作所（取締役社長：庄山悦彦、本社：東京都千代田区；以下「日立製作所」）の協力を受け、本年4月より日本で初めての音声認識パソコンの個人投資家への紹介プログラムを開始する予定です。

この音声認識パソコンは、DLJdirectのホームページ上で提供している証券取引サービスを日本IBMの提供する音声認識ソフトウェア「ViaVoice」と、音声対応のWebページを作成する「音声ページ対応ツール」を活用して音声による操作を可能にするものです。対象となるパソコンは、日本IBM製デスクトップPC「Aptiva」と、日立製作所製マルチポジショナルPC「FLORA 2 2 0 MP」となります。

また、音声認識パソコンの実際の証券取引における実用性を検証し、その使い勝手と精度を一層高めるため、4月からの紹介プログラム実施に先立って、2月から3月の期間、DLJdirect顧客と公募者から選抜された30人のモニターによるライブテストを行います。公募によるテスト参加希望者は、今後新聞広告を通じて募集します。

DLJdirectは、音声認識パソコン紹介プログラムを展開することで、パソコン初心者および50歳台以上のミドル・シニア層の取り込みを強化してまいります。特に50歳以上の層は、インターネット利用の中心的世代層である30歳台と40歳台に比べ、パソコンに対する抵抗を示しがちです。しかしながら、個人としての保有資産高も多く、証券取引サービス向けの顧客層としてはもっとも魅力的な層です。これまでの市場の反応を見ても、この層の人々は、インターネット証券取引による格安の手数料と豊富な情報を利用したくても、パソコンに対する基本的な部分での抵抗、すなわち、キーボードやマウスといった馴染みのないユーザーインターフェースへのためらいが大きいと、なかなか利用に踏み切れていない実態があります。DLJdirectでは、そうした人々の障壁を取り除くことでインターネット証券取引を一層身近な存在にし、顧客層の拡大につなげていきたいと考えています。

さらに、日本IBMと日立製作所にとっても、音声認識技術をベースに証券取引という新

たなアプリケーション分野への展開を図るとともに、DLJ*direct*を通じた個人投資家への直接的な販売チャネルの確保が可能となります。また、証券取引分野での実績を積むことで当該技術への一層の信頼性を向上し、今後のより広いアプリケーション分野への展開を推進することができます。

DLJ*direct*は、1999年3月にDLJ*direct* Japan Holdings Inc.と住友銀行、住友海上火災保険、住友商事、住友信託銀行、住友生命保険、大和証券グループ本社、インターネットイニシアティブが共同設立、同年6月11日よりサービスを開始した日本初のインターネット・トレーディング専門の証券会社です。

「ViaVoice」は、IBMの30年近くにわたる音声認識の研究に基づいた音声認識プログラムです。現在、PC用ソフトウェアとして「ViaVoice ミレニアム日本語版」を発売しており、喋った言葉をそのままテキスト文章として口述筆記すること（ディクテーション機能）ができたり、声でプログラムの起動や操作をしたり（ナビゲーション機能）することができます。